

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	18	大学等名	宇都宮大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・本取組では3C人材（新たな地域社会の変革を担うべく主体的に挑戦し（Challenge）、自らを変え（Change）、社会に貢献（Contribution）する人材）を育成する能力を「行動的知性」として明確化し、その獲得及び可視化のための取組を、教育改革推進室を核とした全学的な実施体制の下で着実に実施していることは評価できる。
- ・アクティブ・ラーニング型授業の開発に取り組む教員を「アクティブ・ラーニング実践者」と位置付け、また、「大学における授業改善のためのヒント集」など、各種媒体により学内周知を図るなどアクティブ・ラーニングの深化と拡充に努めていることは評価できる。
- ・全学的取組により、教員のFD参加が飛躍的に伸びたことは評価できる。また、教員の研修プログラム、模擬授業のHP掲載など、教員の動機付けの取組も適切である。
- ・ピア・サポーターの養成、研修プログラムの作成、ラーニング・コモンズの活用は、学生の主体性に配慮した取組であり、評価できる。
- ・シラバスへのアクティブ・ラーニング度数と3C到達度チェックの掲載は、学修到達度可視化のための適切な取組であり、評価できる。

<改善を要する点>

- ・学生の授業外学修時間については、ラーニング・コモンズにおける学生スタッフの活動のみでなく、FD内容の精査を含め、全学的により一層きめ細かい対応が必要と思われる。また、卒業生等を対象とした調査についても、調査結果の活用方法など具体的な対応の取組が必要である。
- ・学外連携会議がどのように機能しているのか、また、外部評価委員の意見が具体的にどのように生かされているか説明が必要である。
- ・高等学校を含めた幅広いステークホルダーへの取組の公開をはじめ、大学間の連携など、より積極的な事業成果の普及活動が必要である。
- ・今後は、本事業を踏まえた学士課程教育体系化の推進が必要である。また、ナンバリングなど教育課程の体系化や、アセスメント・ポリシーなど、大学全体として教育改革のより一層の推進が必要である。